

令和元年

# 第1回総合教育会議概要録

(開会 令和元年6月6日)

(閉会 令和元年6月6日)

岐阜県可児市教育委員会

令和元年6月6日午後2時00分開会

**出席者**

富田成輝君（市長）

星野京子君（教育委員）

伊藤小百合君（教育委員）

瀨瀨新吾君（事務局長）

奥村恒也君（学校教育課長）

籠橋義朗君（教育長）

生駒隆昌君（教育委員）

丹羽千明君（教育委員）

石原雅行君（教育総務課長）

堀田 誠君（教育研究所主任指導主事）

**教育委員会事務局職員**

服部賢介君（教育総務課総務係長）

圓藤 亨君（教育総務課総務係）

中水麻以君（教育総務課総務係）

## 開会の宣告

- **事務局長（額瀨新吾君）** 令和元年度第 1 回総合教育会議の開催を宣告。

## あいさつ

- **市長（富田成輝君）** 教育委員の皆様方が集まる貴重な機会であるため、今回は主に教育大綱と次期教育振興基本計画について忌憚のない御意見を賜りたい。

## 議題

- **市長（富田成輝君）** 「議題 1 教育大綱について」だが、教育大綱は平成27年 9 月に策定され 3 年半が経過している。

前回の総合教育会議において教育委員の意見を確認し、現行の大綱を継続すると決定した。また、事務局では自治連絡協議会、民生連絡協議会、PTA協議会等に確認し大綱の変更または修正の意見はないということであったが、これらの意見を踏まえた上で、今現在の大綱がこれからの時代、今の子どもたちが大人になる頃を踏まえて加えることあるいは見直すことはないかという視点で事務局とも相談してきた。

今後、「人生100年時代」といわれるように子どもたちは非常に長く生きていける、生きていかなきゃならない。仕事についても、当然長く生きていくためには長く稼がなくてはならず、そして長く健康を維持することが求められる。

今国や他の市町においても100年時代を迎えるにあたり色々言われているが、何が大事かと突き詰めると、ずっと勉強し続けること、ずっと成長し続けること。そこに集約されるのではないかという思いがある。

そのため、目指す方向のうち『～伸ばす義務教育』を推進し、』の後にある「可児市の未来に貢献できる人材を育成します」を「生涯にわたって学び、成長していく人材を育てます」と変更することで、その思いを集約した。

また、教育長からはあえてうたうまでもないため、「日本一子どもの心に寄り添い」の「日本一」を外すと。もともと「生涯にわたって学び、成長していく」ことは大事で、人生100年時代になればより大事になる。今回、提示した見直し案について御意見があればお願いしたい。

- **教育委員（生駒隆昌君）** 可児市の教育大綱の 5 つの目標は非常に良いものであり、目指す方向を見直すのもよいと思われる。

ただ、ふるさと教育を大事にしているように、いずれは可児市に戻ってきて何らかの貢献をしながら生きていってほしいという思いは目指す方向に残したほうがよいのではないか。

- **市長（富田成輝君）** 現行の「可児市の未来に貢献できる」を残しつつ、「生涯にわたって学び、成長していく」という文言を入れてはという意見がでたが、そのほかどうか。

- **教育委員（星野京子君）** 目指す方向の案はこれでいいと思われる。生駒委員の言われるように、確かに可児市で活躍してくれることは望ましいが、どこにいても活躍でき、ふるさとの素晴らしさ、可児で育ってよかったと思える大人になるということも大事であるため、あえて「可児市の未来に」と言及しなくてもよいのでは。

- **市長（富田成輝君）** 迷うところだが、教育という視点で考えた際にはあえて限定しなくてもよいと思われる。本音を言えば可児にいてほしいが、可児にいても貢献はできるし、どこで活躍してもここで生まれ育ったということについてはついてまわる。平成27年に策定した際には、可児市の教育大綱であるため、あえて入れたという経緯がある。他の委員はどうか。
- **教育委員（伊藤小百合君）** 多様な選択肢があるため地元限定せずに、広い意味で捉えたらよいのではないか。
- **市長（富田成輝君）** 教育大綱の5つの目標のうち4つ目に「ふるさとを愛し、社会に進んで貢献できる人」とあるように、「可児市の未来」と明記するしないにかかわらず、その思いは同じである。
- **教育委員（丹羽千明君）** 星野委員、伊藤委員と同意見である。「可児市の未来に貢献できる人」と限定すると貢献できないとだめなように捉えられる可能性もあるし、市外へ移る人も大切に育てることが大事であるため、外したほうがよいのではと思われる。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 可児で生きていってほしいという思いは皆同じであるため、明確に記す必要はないかもしれない。可児の子どもたちを大事にしていきたいという気持ちが綱に残ればよい。
- **市長（富田成輝君）** これらの目標に順番はないが、並びもこのままでよいか。
- **教育委員（星野京子君）** 今の順番のままでよい。
- **教育委員（伊藤小百合君）** 同じく変わらないほうが良いのでは。
- **教育委員（丹羽千明君）** 順番ということではないが、外国籍の子どもが多い点が可児市の特徴であるため、2つ目の目標の文章が多文化共生についてより伝わるものだとよいと思う。
- **市長（富田成輝君）** その点は、自分を認め相手を思いやるという1つ目の目標に最も込めている。可児にいる子は皆等しく可児っ子であり国籍は関係ない。あえて多文化共生といわなければならない日本が他国と比べても少しおかしいのかもしれない。以前、今渡南小学校へ行った際も、子ども達の間が多文化共生という意識はなく、そこが可児のいいところである。  
自分を大事に、国籍や性別の違い、体力や頭の良しあし、障がいの有無など全て含めて皆でともに生きていく、良好な人間関係を築いていくことが重要である。これからの長い将来を生きていくうえで大切なこととして「生涯にわたって学び、成長していく」と集約したが、もう一つ大事なことは、人間関係である。自分自身を磨き勉強し続けるということと、仲間をつくることの2点が今後より大切となる。
- **教育委員（丹羽千明君）** 基本的な理念は1つ目に込められていると再認識できた。順番はこのままでよい。
- **市長（富田成輝君）** では議題1の教育大綱については、目指す方向の文言を「推進し、」の後に「生涯にわたって学び、成長していく人材を育てます。」と改め、目標の1から5までの順番は変えないということよろしいか。

〔「はい」の声あり〕

では、そのように。事前に意見を伺った関係団体には、今回の議論を踏まえた結果、教育大綱を一部見直しする旨を事務局から周知するようお願いする。

続いて「議題2 次期教育振興基本計画について」事務局から説明を。

- **事務局長（額瀨新吾君）** 教育振興基本計画については、今議論いただいた教育大綱を実現するための詳細の計画という位置づけである。

今月から策定委員会を設け、色々な御意見を参考に計画を作成していくが、「笑顔の学校」というスローガンで進めてきた部分については、前回の総合教育会議においてもそのままよいのではとの御意見も頂いていることから、「笑顔の学校」をテーマに進めていきたい。

また、文化やスポーツなど、現在教育委員会が所管していない分野も現行の計画には含まれている。今回の策定に際しては、幼稚園や保育園、子育て関係部門との連携など義務教育に関わる他分野との連携については含む形とするが、基本は義務教育をメインに絞った計画としていきたいと考える。

では、配布資料である教育に関するアンケートの概略を課長からご説明申し上げます。

- **教育総務課長（石原雅行君）** 資料の可児市の教育に関するアンケート（市民アンケート）調査は、平成31年4月に16歳以上の2,000人を対象に行ったもので、10年前の平成21年度にも同じアンケートをとっており、この10年間の意識の変化について調査をしたものである。

まだ1次結果であるため分析とまではいかないが、概略としては、問26の「可児市の子どもたちにどのような子どもになってほしいと思うか」の結果は、「思いやりややさしさを持った子ども」「ルールやマナーを守る子ども」「向上心やチャレンジ精神のある子ども」といったように上位3つが今の教育大綱の1、2、3の目標と一致している。

問27の「可児市の学校教育の充実のためにどのような取り組みが必要だと思うか」については、「いじめや不登校等の対策」が最も多く、次いで「心の教育の充実」、「子どもの学ぶ意欲を高める指導」となっている。前回調査では「学ぶ意欲を高める指導」が最も多かったのに対し、今回は「心」の方が上位にきた結果となった。問28の「可児市の子どもが健やかに育まれるようにするために、市はどのようなことに力を入れるべきか」については、「大人への教育の充実」、「子どもたちの相談事への対応の充実」となっている。

- **事務局長（額瀨新吾君）** こういったアンケート内容も参考に、教育振興基本計画に関し御意見を頂ければ幸いである。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 義務教育に特化した計画にとのことだが、教育大綱の5つの目標を達成するための多様な取り組みがある中で、義務教育に特化した部分でも文化やスポーツなどを教育の大きな要素として目標達成の中の取り組みの一部として入れていただきたい。
- **教育委員（星野京子君）** いじめや不登校、ひきこもりなどの社会問題を考えても、「子どもの心に寄り添う」ということが大事だと思われる。
- **市長（富田成輝君）** 今は、義務教育は学校へ行くことだが、社会全体として、今後ひきこもりの子を対象にしたクラスが増えていき、学校へ行かなくても義務教育は受けているという状況になるかもしれない。そういう子が社会に出る気になるための教育の場が増える可能性はある。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 今、学校訪問が始まったところであり、今回テーマとして不登校の児童生徒の状況を伺っている。不登校の児童生徒はいるが、スマイリング

ルームに通ったり、放課後に学校へ来たりと何らかの形で先生や学校と関わりをもっている。人間関係をつくり、不登校やひきこもりの子を一人でも減らしていくための取り組み、そうなる前までの取り組みが重要となる。

- **市長（富田成輝君）** 今回の基本計画にどこまで盛り込むかは別として、ひきこもりが増加しているなどの現状を見据え、こういったことを念頭に置いて計画を策定していくと。この市民アンケートを分析すると面白いかもしれない。
- **事務局長（額瀨新吾君）** 総合政策課においてクロス集計などを今後行うとのことなので、そういった結果も参考にしていきたい。
- **教育長（籠橋義朗君）** 学力よりも人間関係を重視する傾向がアンケートからもわかる。
- **市長（富田成輝君）** 一流大学へ行くのがいい人生という訳ではないことを社会が気づきだした。ただ、大学はともかく、高い教育を目指すということも大事である。そのほか、議題2について何かご意見はないか。

〔挙手する者なし〕

では議題3「その他」について、ご意見あれば。

- **教育委員（星野京子君）** 現在、学校訪問をしているが「笑顔の学校」ということで、児童生徒たちは非常に落ち着いている。様々な課題はある中でも施設の老朽化でトイレが非常に古い、予算対応が中々困難な状況であると聞く。少しでも早めに行ければ有難い。
- **市長（富田成輝君）** 私もそのとおりだと思う。ただ一方で、ICTなどそちらの対応もしなければならない。
- **教育委員（星野京子君）** 可児市は先駆けてエアコンが整備されており有難いが、特別教室にはまだないところもある。
- **市長（富田成輝君）** 今後市としては、抽象的な総合計画に代え具体的な事業実施計画を策定していく。要は何が必要で、その中でも何を優先すべきなのか、起債をするのかしないのかなどを計画し、その計画を基に毎年度予算を編成すると。もちろん緊急事態が発生した際には臨機応変に対応をしていくが、教育委員の立場から何を優先にといったご意見は今後も頂ければ有難い。多様な要望、意見を伺い優先順位に基づき判断していく。
- **教育委員（丹羽千明君）** 先日福祉センターで性的少数者に関する講習会があったが、学校にもそういった子もいると思われる。可児市も多様性を認め、先生がきちんと対応でき、相談しやすい優しいまちになってほしい。
- **市長（富田成輝君）** 先ほどの国籍の話と同じだと思う。あえてLGBTだけを取り上げるものでもない。100人いれば100人違い、多様な子がいるということを先生は意識して本人にとって何が最もよいのかを意識して接してほしい。そのほかご意見は。

〔挙手する者なし〕

ありがとうございました。今回のご意見を踏まえ、事務局は対応をお願いしたい。

令和元年度第1回総合教育会議の閉会を宣告

閉会 午後3時00分